

## 日本国際経済学会ニュース

発行：日本国際経済学会本部

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学大学院経済学研究科 中西訓嗣研究室気付

日本国際経済学会本部事務局

Tel：078-803-6837（中西研究室） Fax：078-803-7293（研究科事務局）

E-mail：jsie-office@econ.kobe-u.ac.jp

会長挨拶

## 第68回全国大会を終えて

日本国際経済学会 会長  
阿部 顕三

日本国際経済学会第68回全国大会は、10月17日・18日の両日にわたり中央大学で盛大に開催されました。今大会の共通論題は世界金融・経済危機の視点からグローバリズムのあり方を問い直そうとしたものであり、興味深い報告と活発な議論が行われました。また、各分科会においても多くの参加者があり、本大会が研究の報告と会員の相互交流の場として貴重な役割を果たしました。さらに、韓国国際経済学会から派遣された比較的若手の研究者からも国際金融に関連した非常にレベルの高い研究報告が行われ、日韓の相互交流が学術的にも大きな意味を持ったと思います。今大会を準備・開催していただいた中央大学の先生方、プログラム委員会の先生方、および大会に参加していただいた会員の皆様にあらためてお礼を申し上げる次第です。

今大会の会員総会におきまして機関誌『国際経済』とThe International Economyの改革案をお認めいただきました。投稿論文の審査にあたり、これまで審査責任者と2名の審査委員で審査を行ってまいりましたが、審査委員を1名として審査をより迅速に行うこととしました。次号の機関誌への投稿からこの手続きで審査を進めてまいりますので、より多くの会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

両機関誌は、今大会後、科学技術振興機構（JST）の電子アーカイブ化事業の対象誌に正式に選定されました。ウェブ上で両機関誌の論文にアクセスできるようになりますので、より多くの研究者に掲載論文を読んでいただくと期待しております。皆様の研究成果の公表の場として両機関誌が活用されることを心から願っております。

また、会員総会では理事会回数改革と合わせて、春季大会の創設もお認めいただきました。春季大会は、従来の秋の全国大会に加えて、全国の会員に開放された大会を春季にも開催するものです。全国大会は内規に沿って開催されますが、春季大会はその内規にしばられず担当支部で特徴ある大会を企画していただけるようにしております。来年度を移行期間として、再来年度から春季大会を開催してまいります。全国大会のみならず春季大会も会員の皆様の研究報告や相互交流の場として大いに活用していただけることを祈っております。

今後とも会員の皆様からのご助言とご支援を賜り、より一層魅力のある学会にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

2009年11月

## 日本国際経済学会ニュース 2009/12/1 目次

◎会長挨拶	1	◎日本国際経済学会の対外活動について	6
◎平成21年度会員総会 議事録	2	◎科学技術振興機構による機関誌の電子アーカイブ化事業について	6
◎平成21年度小島清賞の決定と受賞について	3	◎日本国際経済学会機関誌『国際経済』および『The International Economy』全号電子アーカイブ化に伴う著作権移譲に関する告知	7
◎平成20年度小島清基金決算	3	◎2010年度（第5回）小島清賞について	8
◎平成21年度新入会申込者（追加分）	3	◎本部・各支部事務所所在地	8
◎特命理事および幹事の任命について	4		
◎平成21年度一般会計予算について	5		
◎春季大会および理事会の年2回開催について	6		

## 平成 21 年度会員総会 議事録

### 会員総会 (第 1 日)

日時：2009 年 10 月 17 日 (土) 13 時 00 分～13 時 20 分

会場：中央大学 3115 教室

議長：阿部顕三会長 (大阪大学)

1. 平成 20 (2008) 年度事業報告について  
中西訓嗣常任理事 (神戸大学) より、以下の報告があった。
  - (1) 第 67 回全国大会開催 (於 兵庫県立大学)
  - (2) 機関誌『国際経済 (日本国際経済学会研究年報)』第 59 号発行
  - (3) 機関誌『The International Economy』No.12 発行
  - (4) 会員名簿の発行
  - (5) 『日本国際経済学会ニュース』の発行 (2 回)
2. 平成 20 (2008) 年度決算案について  
中西訓嗣常任理事より説明があり、承認された。(『日本国際経済学会ニュース』2009 年 9 月 28 日号参照)
3. 平成 20 (2008) 年度特別事業活動基金決算案について  
中西訓嗣常任理事より説明があり、承認された。(『日本国際経済学会ニュース』2009 年 9 月 28 日号参照)
4. 平成 20 年度 (2008 年 10 月～2009 年 9 月) 日本国際経済学会小島清基金決算案について  
中西訓嗣常任理事より説明があり、承認された。【3 頁参照】
5. 平成 21 (2009) 年度事業案について  
中西訓嗣常任理事より以下の通り説明があり、承認された。
  - (1) 第 68 回全国大会開催 (2009 年 10 月 17, 18 日 中央大学)
  - (2) 機関誌『国際経済 (日本国際経済学会研究年報)』第 60 号発行
  - (3) 機関誌『The International Economy』No.13 発行
  - (4) 会員名簿の発行
  - (5) 『日本国際経済学会ニュース』の発行 (2 回)
6. 平成 21 (2009) 年度予算案について  
中西訓嗣常任理事より、数値の不備および支出計画の変更を修正した案を翌日 (平成 21 年 10 月 18 日) の会員総会 (第 2 日目) に改めて付議するとの説明があった。【5 頁参照】
7. 平成 21 (2009) 年度特別事業活動基金予算案について  
中西訓嗣常任理事より説明があり、承認された。(『日本国際経済学会ニュース』2009 年 9 月 28 日号参照)
8. 日本国際経済学会小島清賞研究奨励賞および優秀論文賞の受賞者の発表について  
阿部顕三会長より本年度の小島清賞について、研究奨励賞は該当なし、優秀論文賞は大東一郎論文および菊地徹・岩佐和道共同論文の 2 編であるとの発表があった。

### 会員総会 (第 2 日)

日時：2009 年 10 月 18 日 (日) 13 時 00 分～13 時 20 分

会場：中央大学 3115 教室

議長：木村福成副会長 (慶應義塾大学)

1. 平成 21 (2009) 年度予算案について  
中西訓嗣常任理事より数値等を修正した予算案について説明があり、承認された。【5 頁参照】
2. 新入会員の発表について  
『日本国際経済学会ニュース』(2009 年 9 月 28 日号) に掲載されている 31 名に加え、ニューズレター発行後に 2 名(合計 33 名)の入会申込があり、理事会において全員の入会が承認されたとの報告があった。【3 頁参照】
3. 春季大会および理事会回数について  
阿部顕三会長より説明があり、平成 23 年度より「春季大会」を開催し、同時に理事会も開催することが決定された。【6 頁参照】
4. 機関誌の電子アーカイブ化事業について  
中西訓嗣常任理事より、独立行政法人科学技術振興機構が推進する学術誌の電子アーカイブ化事業に対して、機関誌『国際経済』および『The International Economy』の両誌について対象誌として申請中であるとの説明があった。
5. 機関誌改革について  
中西訓嗣常任理事より、機関誌の投稿論文に対する審査過程が簡素化されたとの報告があった。また、阿部顕三会長より、機関誌『国際経済』を年 2 回発行する方向で検討中であるとの説明があった。
6. 学会創立 60 周年記念事業について  
阿部顕三会長より、木村福成副会長(慶應義塾大学)、岩本武和常任理事(京都大学)、奥村隆平常任理事(名古屋大学)の 3 名を委員とする記念事業実行委員会を設立して記念事業の検討を依頼するとの説明があった。なお、記念事業実行委員会委員長には、岩本武和常任理事が任命されたとの報告があった。
7. 第 69 回全国大会(2010 年)開催機関について  
阿部顕三会長より、平成 22 年度全国大会を平成 22 年 10 月 16 日(土)・17 日(日)の両日、大阪大学において開催するとの報告があった。また、第 69 回全国大会会準備委員会の委員長に福重元嗣特命理事(大阪大学)が選出されたとの報告があった。
8. 第 69 回全国大会「プログラム委員会」の委員長および委員の発表について  
阿部顕三会長より、第 69 回全国大会のプログラム委員会の委員として、岡本久之常任理事(兵庫県立大学)、若杉隆平常任理事(京都大学)、石田修理事(九州大学)、櫻井公人理事(立教大学)、新保博彦理事(大阪産業大学)、栗原裕幹事(愛知大学)、高木信二幹事(大阪大学)の 7 名が指名されたとの報告があった。なお、委員長には、開催機関の高木信二幹事(大阪大学)が選出されたとの報告があった。

## 2009 年度小島清賞各賞の決定と受賞について

2009 年 7 月 12 日に日本国際経済学会 小島清賞選考委員会が開催され、以下の通り各賞の授賞が決定されました。また、先日中央大学多摩キャンパスで開催された第 68 回全国大会二日目(10 月 18 日)に小島清賞優秀論文賞授与式が執り行われました。

1. 研究奨励賞：該当なし
2. 優秀論文賞：大東一郎先生(東北大学)  
菊地徹先生(神戸大学)・岩佐和道先生(京都大学)

## 平成 20（2008）年度小島清基金決算

2009年10月17日に中央大学多摩キャンパスで開催された会員総会において、以下の平成20（2008）年度小島清基金決算が承認されました。

平成20年度 小島清基金決算（2008/10～2009/9）		
収入	繰越金	20,897,568
	利息	7,529
	総計	20,905,097
支出	賞金*	100,000
	会議費	78,663
	交通費	166,000
	郵送費	0
	振替料金	840
	総計	345,503
	次年度繰越金	20,559,594
*優秀論文賞受賞者の一人である大東一郎氏は海外出張のため賞金振込先を確認できず、振り込みを次年度（平成21年10月以降）に持ち越した。		

## 平成 21（2009）年度 新入会申込者（追加）

※個人情報保護のため削除しました。

## 特命理事および幹事の任命について

阿部顕三会長より、新たに福重元嗣氏（大阪大学）が特命理事に、また高木信二氏（大阪大学）が関西支部の幹事に任命されました。平成21年度会員総会議事録（第2日目）に記載の通り、福重元嗣特命理事は第69回全国大会会準備委員会の委員長に、また高木信二幹事は第69回全国大会プログラム委員会の委員長にそれぞれ選出されました。

## 平成 21 (2009) 年度 一般会計予算について

「日本国際経済学会ニュース」(2009年9月28日号)でお知らせした平成21(2009)年度予算(案)の前年度繰越金に誤りがありました。また平成21年度会員総会では、先の誤りを訂正した上で、さらに機関誌関係費を変更した予算案をお認めいただきました。決定された平成21年度の一般会計予算は以下の通りです。

期間:平成21(2009)年4月1日－平成22(2010)年3月31日				
	項目	2009年度予算 金額(円)	前年度予算比増減	備考
収入	前年度繰越金	5,980,428	771,033	
	会費収入	10,000,000	0	
	機関誌売上	600,000	300,000	
	雑収入(預金利息等)	5,000	0	
	総計	16,585,428	1,071,033	
支出	全国大会費	1,800,000	0	
	大会運営費	1,800,000	0	
	大会特別運営費	0	0	
	支部運営費	1,930,000	0	
	関東支部	940,000	0	
	中部支部	300,000	0	
	関西支部	690,000	0	
	機関誌関係費	1,900,000	▲ 1,300,000	
	機関誌製作費(2冊)	1,500,000	▲ 1,200,000	
	機関誌編集費(2冊)	150,000	▲ 100,000	
	機関誌郵送費	250,000	0	
	日本経済学会連合分担金	35,000	0	
	国際交流費	550,000	0	
	本部関係費	2,340,000	▲ 500,000	
	印刷費	200,000	▲ 50,000	
	事務費	50,000	▲ 50,000	
	事務所費	50,000	▲ 100,000	
	機器購入費	10,000	0	
	消耗品費	30,000	0	
	通信費	700,000	▲ 100,000	
	会議費	20,000	0	
	交通費	150,000	▲ 50,000	
	謝金	250,000	▲ 150,000	
	振替料金	30,000	0	
	学協会サポートセンター委託費	750,000	0	
	ホームページ管理運営費	100,000	0	
	会員名簿関係費	600,000	▲ 100,000	
製作費	470,000	0		
郵送費	130,000	▲ 100,000		
雑費	50,000	0		
予備費	200,000	▲ 300,000		
(小計)	9,405,000	▲ 2,200,000	基礎収支 555,000	
次年度繰越金	7,180,428	3,271,033		
総計	16,585,428	1,071,033		

## 春季大会および理事会の年2回開催について

当該年度の全国大会開催支部とは異なる支部で「春季大会」を実施し、それに併せて理事会を開催する。これと従来の全国大会時の理事会とを併せて、理事会を年2回開催する。

### 1. 春季大会について

- (a) 春季大会は、現在すでに実施されている各「支部大会／総会」への参加を全国の会員に開放する形をとる。すなわち、報告希望の募集、開催通知などは全国レベルで行う。
- (b) 春季大会の実施規模やプログラムの決定にあたっては、開催支部役員会（または各支部に設置されるプログラム委員会等）の裁量に委ねる。
- (c) 春季大会では全国版の「会員総会」は開催しない。ただし、各支部レベルの「支部会員総会」の開催を妨げるものではない。

### 2. 春季に開催する理事会について

- (a) 年度早期に検討を必要とする議題、すなわち (i) 予算・決算の審議、(ii) 事業報告・事業計画の審議、(iii) 新入会員の承認、を中心に取り上げる。
- (b) 上に加えて、各種改革等の新規事業に関する議題も取り上げる。

## 日本国際経済学会の対外活動について

日本・韓国国際経済学会学術交流協定に基づき、2009年12月11日（金）に Seoul National University において開催される 2009 年度韓国国際経済学会・冬期学術発表大会に、研究報告者として以下の会員の方々が派遣されることになりました（五十音順、敬称略）。

近藤健児	（中京大学）	Pollution Abatement Equipment and International Migration.
東田啓作	（関西学院大学）	Unilateral Emission Standards, Quality of Vertically Differentiated Products, and the Environment.
柳瀬明彦	（東北大学）	Trade and Global Pollution in Dynamic Oligopoly with Corporate Environmentalism.

## 科学技術振興機構による機関誌の電子アーカイブ化事業について

学会の機関誌『国際経済』および『The International Economy』の両誌が、独立行政法人科学技術振興機構による学術雑誌の電子アーカイブ化事業（ジャーナルアーカイブ Journal@rchive）の対象誌として正式に選定されました。

このジャーナルアーカイブは、国内の学協会の学術雑誌の国際発信力をさらに強化するとともに、日本の知的財産を保存することを目的として、紙媒体であった学術誌を創刊号から電子アーカイブ化して科学技術振興機構で運用する科学技術情報発信・流通システム（J-STAGE）のサイトにおいて公開するものです。こうした事業の対象誌として選定されたことは、本学会の機関誌が、その歴史とともに、学術上大変重要なものと評価された証左でもあります。

【ジャーナルアーカイブのホームページ】 <http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/>



## 日本国際経済学会機関誌『国際経済』および『The International Economy』 全号電子アーカイブ化に伴う著作権移譲に関する告知（お願い）

会員ならびに著者各位

日本国際経済学会（以下「本会」という）は、1950年の創立以来、機関誌『国際経済』を刊行して参りました。また、1995年から新たに刊行を開始した『国際経済（投稿号）』は、今日の英文による査読付き投稿論文掲載誌『The International Economy』に引き継がれております。両機関誌『国際経済』および『The International Economy』の刊行を継続できておりますことは、ひとえに会員各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。（以下、『国際経済』および『The International Economy』を「両機関誌」という。）

此の度、本会は科学技術振興機構の電子アーカイブ対象選定委員会によって、本会の両機関誌が創刊号以降の全号を電子化してアーカイブされる対象誌として選定されました。この電子アーカイブとは、誌面を電子データ化し、同機構インターネットウェブサイト上で公開することをいいます。これにあたっては、電子化された論文すべてが同機構のサーバに保存されるため、著作権が本会に帰属していることが条件となります。本誌の電子アーカイブ化にあたっては、著作権法により、掲載された論文などの著者からその著作権（複製権、公衆送信権を含む）の許諾又は譲渡を必要とします。これまで、投稿規定内に著作権移譲に関する規定がなかったため、著作権の移譲が明確にされていない状態となっておりました。これらの事情から本電子アーカイブ化を進めるにあたり、創刊号以来の著作についても著作権は本会に帰属して戴く事と致したく、本来であれば会員ならびに著者の皆様お一人ずつに「著作権の許諾手続き」を行うべきではございますが、当該公告を以って著作権の譲渡をお願い申し上げる次第です。

万一、この件に関しましてご了承戴けない場合、あるいはご不審の点がある場合は、2010年3月20日までに本会事務局に文書または電子メールでお申し出下さい。本会は、このお知らせが著者の皆様の目に触れることを前提としておりますが、何らかの事情でこの件をお知りになる機会がなかった場合には、期限を過ぎましても、あらためて個別にご相談させていただき所存です。なお、お申し出のない場合には、ご了承戴けたものとし、電子アーカイブとして公開する時期が参りました段階で、論文を掲載させて戴きたいと存じますが、公開後の会員ならびに著者の皆様からの記事取り下げ要求に際しても柔軟に対応させて戴きます。又、前述のとおり、創刊号以降の全号を電子アーカイブ化するにあたって本会に全ての冊子が所蔵されていないと確認された場合には、改めて会員ならびに著者各位に対して該当冊子の寄贈をお願いする場合がございますので、その際には何卒、会員および著者各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1

神戸大学大学院経済学研究科 中西訓嗣研究室気付

日本国際経済学会本部事務局

電子メール：jsie-office@econ.kobe-u.ac.jp

TEL：078-803-6837（直通）

FAX：078-803-7293（研究科事務室）

## 2010 年度（第 5 回）小島清賞について（お知らせ）

日本国際経済学会・小島清基金運営委員会委員長  
田中 素香

2010 年度(第 5 回)小島清賞の受賞者の選考に際しまして、学会員からの推薦（自薦を含む）という形で、候補者に関する情報（氏名、業績、その他候補の推薦理由等を記載した書面）を幅広く受け付けることとします。小島清賞には研究奨励賞と優秀論文賞があります。詳しくは本学会ホームページをご覧ください。

なお、情報提供の締め切り期限は 2010 年 4 月末日とし、以下の宛先まで「郵送」にて情報をお寄せください。様式は自由といたします。また、情報をお寄せの際には、氏名、住所、電話/FAX 番号、e-mail 先を御記載下さい。

郵送先 〒192-0351  
東京都八王子市東中野 742-1  
中央大学経済学部 中條誠一研究室気付  
日本国際経済学会小島清基金運営委員会

### 本部・各支部事務所所在地

【本 部】 日本国際経済学会 本部事務局  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1  
神戸大学大学院経済学研究科 中西訓嗣研究室気付  
Tel: 078-803-6837 (研究室直通) Fax: 078-803-7293 (研究科事務室)  
E-mail: jsie-office@econ.kobe-u.ac.jp

【関東支部】 日本国際経済学会 関東支部事務局  
〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476  
杏林大学総合政策学部 西 孝研究室気付  
Tel: 042-691-0011 (代表) Fax: 042-691-5899  
E-mail: nishi@ks.kyorin-u.ac.jp

【中部支部】 日本国際経済学会 中部支部事務局  
〒441-8522 豊橋市畑町 1-1  
愛知大学経済学部 栗原裕研究室気付  
Tel & Fax: 0532-47-4468 (研究室直通)  
E-mail: kurihara@aichi-u.ac.jp

【関西支部】 日本国際経済学会 関西支部事務局  
〒522-8522 彦根市馬場 1 丁目 1-1  
滋賀大学経済学部 大川良文研究室気付  
Tel & Fax: 0749-27-1119 (研究室直通)  
E-mail: okawa@biwako.shiga-u.ac.jp

【日本国際経済学会ホームページ】 <http://www.soc.nii.ac.jp/jsie/>

【学協会サポートセンター】  
〒231-0023 横浜市中区山下町 194-502  
Tel: 045-671-1525 Fax: 045-671-1935  
E-mail: scs@gakkyokai.jp  
Home Page: <http://www.gakkyokai.jp/>